

2027年卒業予定者の採用選考が6月1日に正式に解禁されてから1カ月が経ち、就職採用戦線は大きな山を越えた。7月1日現在のキャリアタス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は高水準ながらも、2年連続で前年実績をやや下回ったことがわかった。前年同時期調査との比較や、先月調査（6月調査）からの変化に着目して、ここまでの活動状況を分析したい。

1. 7月1日現在の内定状況（※）

- 内定率は85.5%。前年同期実績（87.3%）を1.8ポイント下回る
- 就職先を決めて活動を終了したのは全体の61.6%。前年（67.2%）を5.6ポイント下回る
- 継続者は「内定あり」「内定なし」を合わせて28.8%

2. 7月1日現在の就職活動量

- 一人あたりのエントリー社数の平均は24.5社。前年同期（25.3社）より0.8社減
- ES提出は2社増加（12.0社→14.0社）。筆記、面接ともに前年同期を上回る

3. 就職活動継続学生の動向

- 選考中企業1.8社、これから受験予定1.6社で、継続学生の持ち駒企業数は平均3.4社
- 今後の方針「新たな企業を探して幅を広げる」が最多
- 「規模にこだわらずに活動」する学生が49.2%。6月調査（41.3%）よりさらに増加

4. 未内定者の見通し

- 内定の見通しが立っているのは未内定者の1割程度（14.5%）にとどまる

5. 就職決定企業について

- 決定業界は、文系は「情報処理・ソフトウェア」、理系は「建設・住宅・不動産」が1位
- 知ったきっかけは「就職情報サイト」に集中。「就活前から知っていた」が次点
- この企業で働きたいと思ったタイミングは「インターンシップ等に参加したとき」が最多

6. 就職決定企業の内定者集合

- 調査時点で「内定者集合があった」44.7%。前年同期（41.2%）を3.5ポイント上回る
- 参加形式は、対面の割合が8割超に（対面84.7%、オンライン15.3%）

※「内定」には、内々定を含む

調査概要

調査対象：2027年3月に卒業予定の大学4年生（理系は大学院修士課程2年生含む）
回答者数：1,058人（文系男子225人、文系女子503人、理系男子183人、理系女子147人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2026年7月1日～7日
サンプリング：キャリアタス就活 学生モニター2027
調査実施：株式会社キャリアタス／キャリアタスリサーチ

1. 7 月 1 日現在の内定状況

7 月 1 日現在の学生モニターの内定率は 85.5%。高水準ながらも、前年実績（87.3%）を 1.8 ポイント下回った。今期の内定率は、広報解禁前の 2 月調査で 4 割を超え（46.6%）、解禁月の 3 月には 5 割を超えるなど（51.7%）、早期化の進行が顕著に表れていた。5 月時点で前年と同水準に並んだ後は、6 月・7 月と前年同期実績をやや下回る状態が続いている。

内定率を属性別に見ると、文理とも男子に比べ女子が高く、特に理系女子は 9 割に達している（91.2%）。また、文系において男女とも前年同期実績を下回り、全体の内定率を押し下げている。

内定取得学生のうち、就職先を決めて就職活動を終了したのは 72.0%で、6 月調査（58.2%）から大きく上昇。選考解禁を迎え本命企業の結果が出たことで、活動を終える学生が多かったとみられる。一方で、内定を得ても就職先を決めきれない学生が前年より増えているのが特徴的。

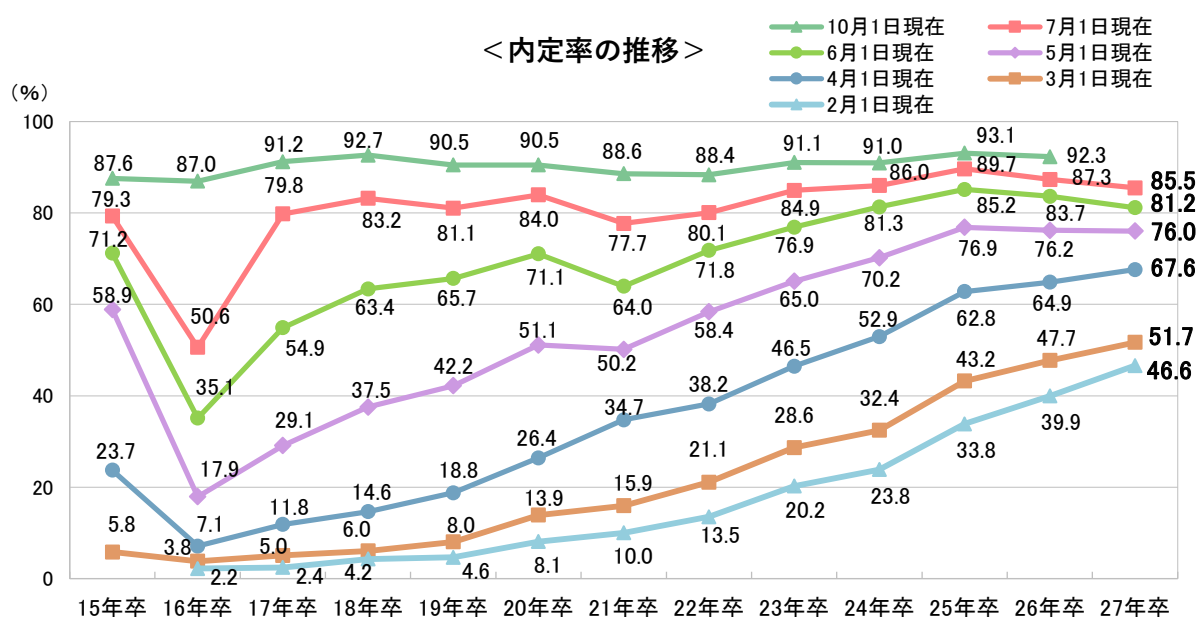
なお、内定取得学生の多くが複数の企業から内定を得ており、内定社数の平均は 2.4 社。

< 7 月 1 日現在の内定状況 > *「内定」には、内々定を含む

	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり	85.5 (87.3)	81.8 (84.1)	86.1 (89.3)	88.5 (85.9)	91.2 (92.9)
内定なし	14.5 (12.7)	18.2 (15.9)	13.9 (10.7)	11.5 (14.1)	8.8 (7.1)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	72.0 (76.9)	67.4 (70.7)	68.6 (73.9)	82.1 (91.1)
	活動は終了したが複数内定保持	10.6 (8.1)	13.0 (11.5)	12.9 (8.5)	6.2 (3.3)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.6 (0.5)	0.5 (0.0)	0.2 (0.2)	1.2 (0.0)
	就職活動継続	16.8 (14.4)	19.0 (17.8)	18.2 (17.4)	10.5 (5.6)

	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数／平均	2.4 (2.5)	2.7 (2.6)	2.5 (2.6)	2.2 (2.3)	2.1 (2.2)

※（ ）内は前年（7月1日現在）の数値

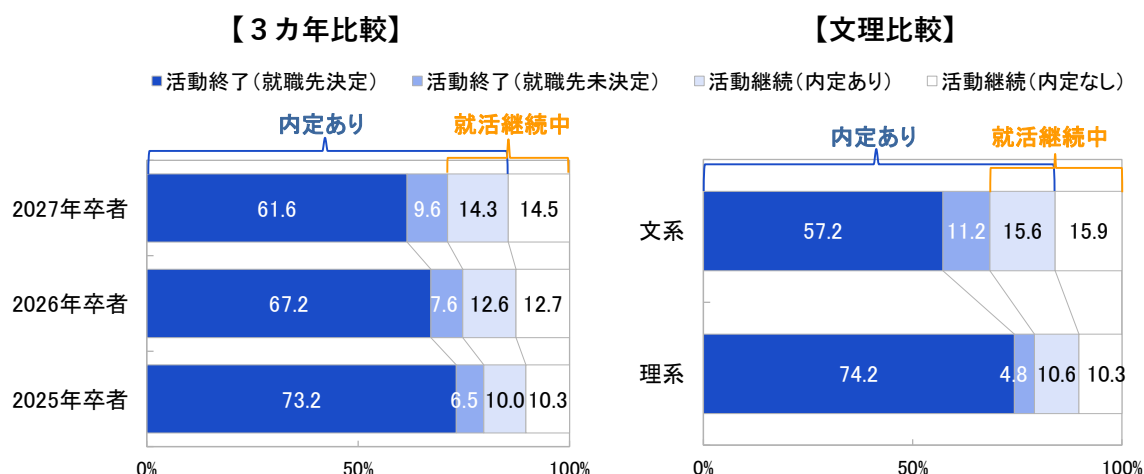


※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17～27卒は6月

回答者全体を分母にして活動状況を見ると、調査時点で就職先を決定して活動を終了した者の割合は 61.6%。内定率自体の低下と、内定を得ても決定に至らない学生の増加で、決定者の割合は前年（67.2%）を 5.6 ポイント下回る。2 年前に比べ 10 ポイント以上低い。

複数内定を保留しているなど就職先未決定である者（9.6%）を合わせて、活動終了者は 71.2%。活動継続者は「内定あり」（14.3%）、「内定なし」（14.5%）を合わせて 28.8%。

文理別に比較すると、文系は内定保持者も含め 3 割超が継続中と回答（計 31.5%）。先月調査（計 47.0%）より大きく減少したものの、理系（計 20.9%）に比べれば継続率は高い。



2. 7 月 1 日現在の就職活動量

7月1日現在の就職活動量（活動社数）を表にまとめた。

一人あたりのエントリー社数の平均は24.5社。3月の解禁時点から前年同月をやや下回る社数で推移し、7月時点では前年より0.8社減。会社説明会の参加社数は前年を上回り（16.6社→17.7社）、積極的に参加している様子がみられる。エントリーシート（ES）の提出社数が2社増加するなど（12.0社→14.0社）、エントリーを絞り込む一方で、本選考を受ける企業は増加した。筆記試験、面接の受験社数も前年を上回る。面接を受けた企業8.7社のうち、最終面接まで進んだ企業は平均3.4社。社数としては前年（3.3社）を上回るものの、最終面接まで進む割合は下がっており、内定率の低下に影響している面もありそうだ。

< 7 月 1 日現在の就職活動の状況（活動社数） >

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー	24.5	25.3	28.3	26.8	14.1	17.5
会社説明会参加	17.7	16.6	18.1	20.6	10.5	14.8
エントリーシート提出	14.0	12.0	16.1	14.8	8.8	11.1
うち、通過した社数	9.2	8.5	10.4	9.7	6.1	7.4
筆記・適性テスト受験	10.1	9.3	11.8	10.1	7.3	8.3
グループディスカッション受験	3.2	3.0	3.6	3.0	3.3	2.5
面接試験受験	8.7	7.7	9.8	9.2	6.3	6.6
うち、最終面接	3.4	3.3	3.7	3.3	3.1	2.9

※それぞれ経験者を分母に平均社数を算出（最終面接社数は、面接試験を受けた者を分母に算出）

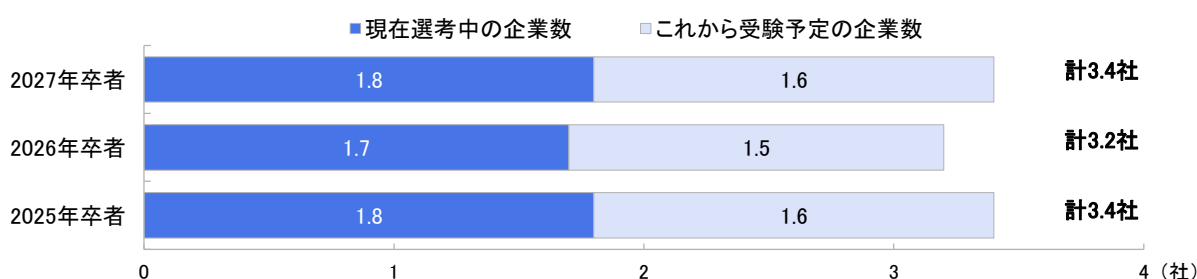
3. 就職活動継続学生の動向

内定保持者も含め、7 月 1 日時点で就職活動を継続している学生（モニター全体の 28.8%）の、「現在選考中の企業数」は平均 1.8 社。「これから受験予定の企業数」の 1.6 社を足し合わせた、いわゆる持ち駒企業数は 3.4 社で、前年をわずかに上回る。

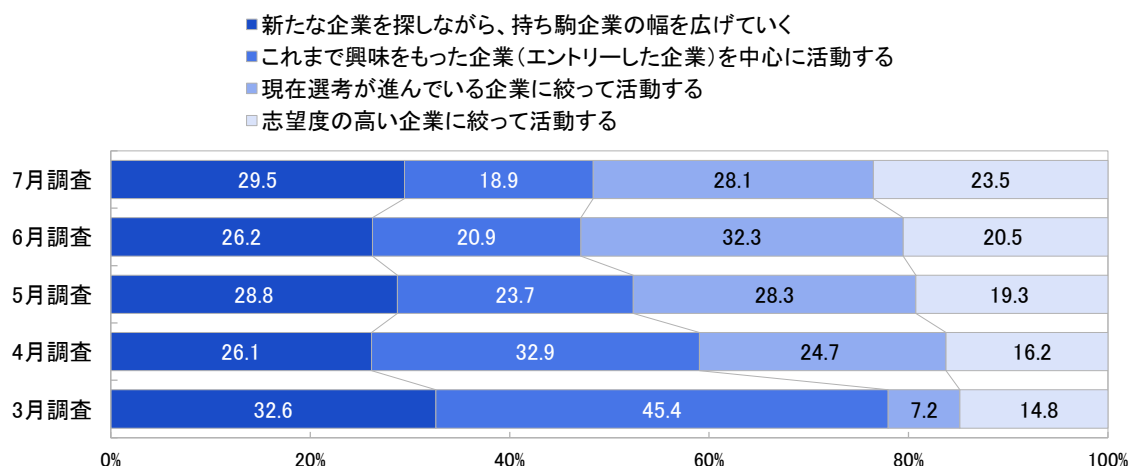
今後の方針・戦略について 5 カ月間の推移を見ると、「これまで興味をもった企業を中心に活動する」が 3 月調査時点では 4 割以上を占めていたが、7 月には 2 割を下回り（18.9%）、「新たな企業を探しながら、持ち駒企業の幅を広げていく」が最多となった（29.5%）。持ち駒企業が少なくなってきた学生を中心に、夏採用などに向け視野を広げて仕切り直しを図る動きが見られる。

また、3 月時点では半数以上の学生が業界トップや大手企業を目指していたが（計 60.6%）、7 月調査では 4 割以下に減少。その分「規模にこだわらずに活動」の割合が増加し、約半数に上る（49.2%）。

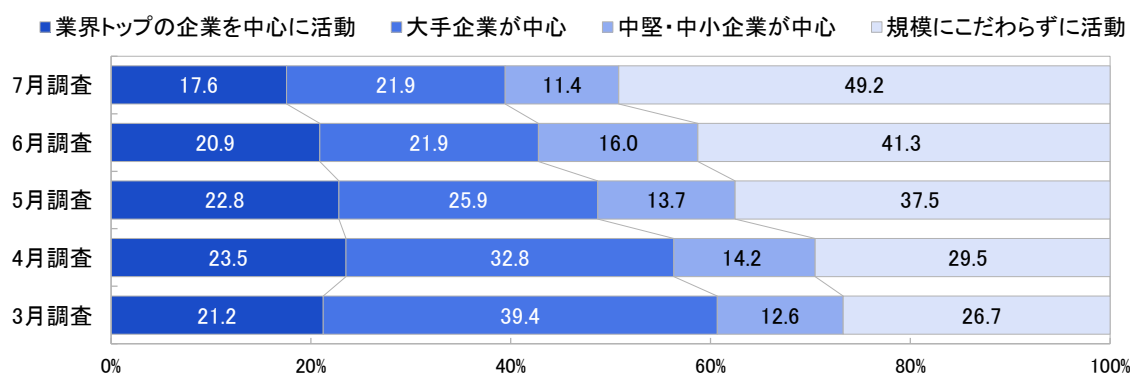
<7月時点の持ち駒企業数>



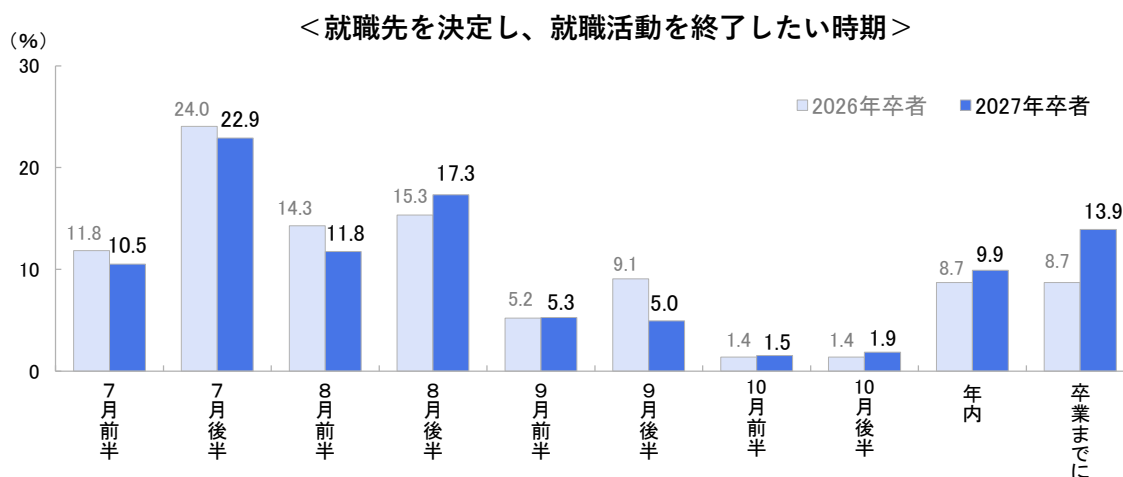
<今後の就職活動の方針・戦略>



<就職活動の中心にしている企業規模>

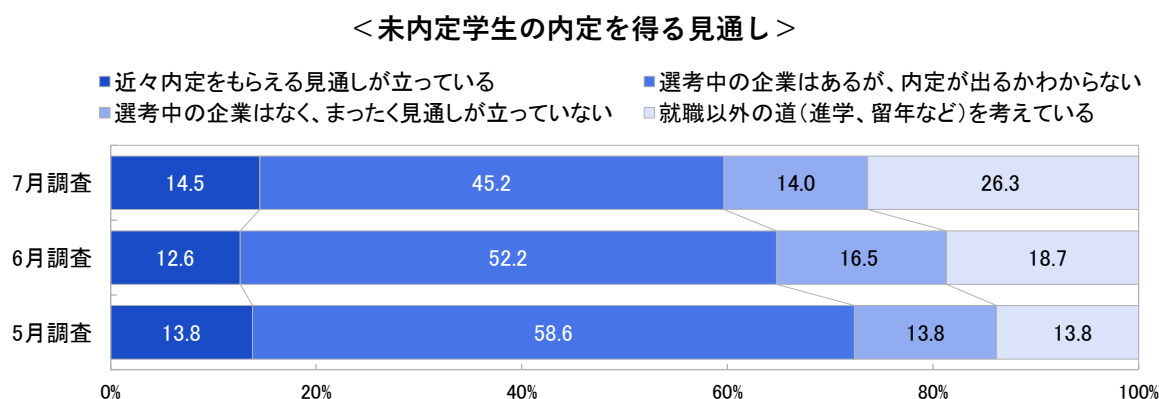


就活継続者が就職先を決定して活動を終了したいと思う時期は、今年も「7 月後半」（22.9%）が最も多い。7 月前半から 8 月後半までを合わせると 6 割超（計 62.5%）となり、夏のうちに就職活動を終わらせたいと考えている学生が大半を占める。一方で、正式内定解禁日の 10 月 1 日以降を回答した人が 3 割弱（計 27.2%）。時期にとらわれることなく、より自分に合う企業を探したい学生が一定数おり、その数は前年よりも増加している（計 20.2%→27.2%）。



4. 未内定者の見通し

調査時点で内定を得ていない学生（全体の 14.5%）に、内定獲得の見通しを尋ねたところ、「近々内定をもらえる見通しが立っている」は 1 割程度にとどまる（14.5%）。最も多いのは「選考中の企業はあるが、内定が出るかわからない」（45.2%）で、ここに「選考中の企業はなく、まったく見通しが立っていない」（14.0%）を足し合わせると 59.2%となり、未内定者の 6 割近くが先の見えない状況にあるようだ。また、「就職以外の道（進学、留年など）を考えている」が 26.3%へと先月から大きく増え、来春の就職自体を見直す動きもみられる。



■未内定学生の声

- もともと志望していた企業にはすべて落ちてしまった。 <文系男子>
- 友人が既に就職活動を終えている中で、自分は 7 月になって初めて最終選考を受けている状態で、思い描いていたプラン通りにいかず、焦りと疲れが溜まっている。 <文系女子>
- 第一志望群の内定を見据えており、志望軸に沿った企業理解も深まっている。 <理系男子>
- 研究を進めて面接で言えることを増やしている。 <理系女子>
- 一度内定をもらったが、納得がいかず 1 からスタートしている。 <文系女子>

5. 就職決定企業について

ここからは就職先を決定して就職活動を終了した学生（モニター全体の 61.6%）のデータをいくつか確認したい。

まず、就職決定企業の業界を見ると、文系の 1 位は今年も「情報処理・ソフトウェア」。前年調査よりポイントが増え（12.3%→14.3%）、集中度がさらに増した様子が見て取れる。2 位も前年と同様「銀行」で、3 位の「建設・住宅・不動産」は前年 5 位から順位を上げた。4 位は「調査・コンサルタント」、「運輸・倉庫」、「保険」が同率で並ぶ。

一方、理系は「建設・住宅・不動産」が、前年 4 位から 1 位となった。前年 1 位の「情報処理・ソフトウェア」が 2 位で、3 位「電子・電機」、4 位「自動車・輸送用機器」、5 位「機械・プラントエンジニアリング」の順。

<文 系>

2026年卒者	%	2027年卒者	%
1位 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.3	1位 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	14.3
2位 銀行	9.5	2位 銀行	9.5
3位 運輸・倉庫	5.7	3位 建設・住宅・不動産	6.2
4位 調査・コンサルタント	5.4	運輸・倉庫	
5位 建設・住宅・不動産	5.2	4位 調査・コンサルタント	4.6
6位 官公庁・団体	4.6	保険	
7位 情報・インターネットサービス	4.1	7位 官公庁・団体	4.4
8位 保険	3.9	マスコミ	4.0
9位 商社（専門）	3.8	8位 その他サービス	
10位 電子・電機	3.4	10位 商社（専門）	3.7

※40業界のうち上位10業界を掲載

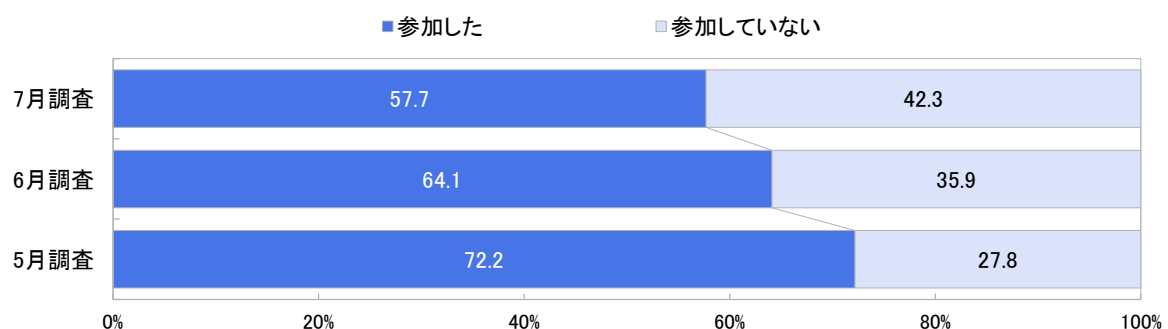
※「その他サービス」＝介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

<理 系>

2026年卒者	%	2027年卒者	%
1位 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.7	1位 建設・住宅・不動産	15.5
電子・電機		2位 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	13.5
3位 自動車・輸送用機器	9.3	3位 電子・電機	11.0
4位 建設・住宅・不動産	9.0	4位 自動車・輸送用機器	5.7
5位 医薬品・医療関連・化粧品	7.0	5位 機械・プラントエンジニアリング	4.9
6位 調査・コンサルタント	6.7	医薬品・医療関連・化粧品	
7位 素材・化学	6.3	6位 調査・コンサルタント	4.5
8位 機械・プラントエンジニアリング	4.3	素材・化学	
官公庁・団体		9位 情報・インターネットサービス	3.7
10位 精密機器・医療用機器	3.7	10位 通信関連	2.9
		その他サービス	

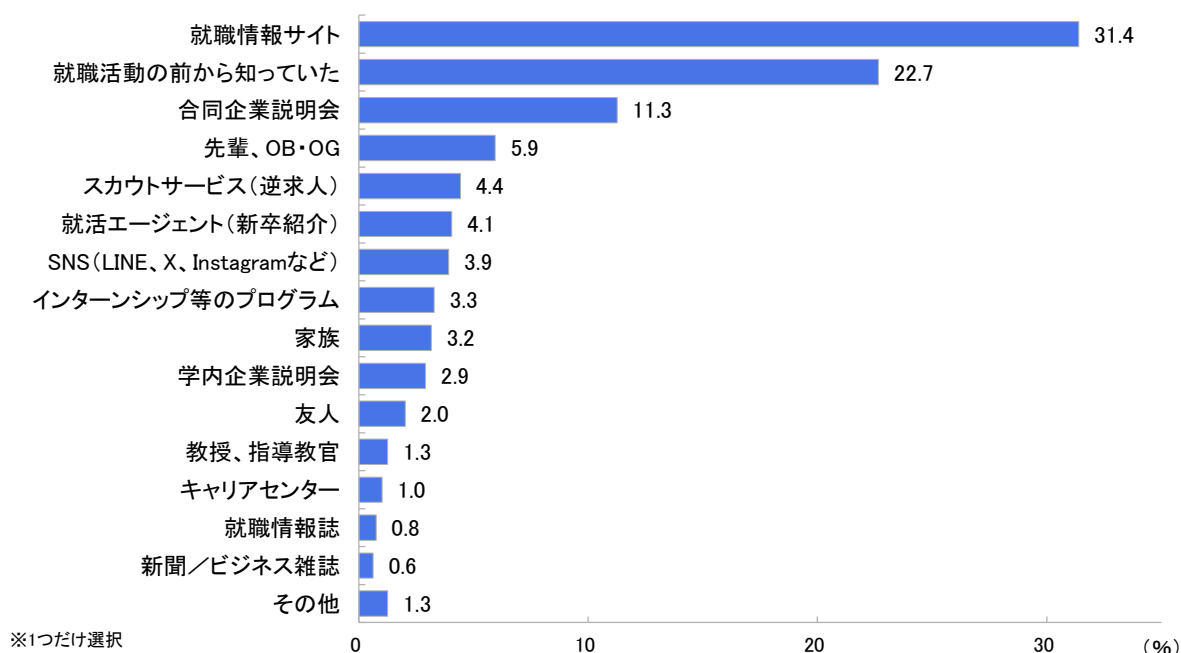
次に、インターンシップ等のプログラムへの参加状況を見てみよう。5 月調査では決定企業の 7 割以上をインターンシップ等に参加した企業が占めていた（72.2%）。月を追うごとにその割合は低下し、プログラムに参加していない企業に就職を決めた学生が増えていった様子が表れている。ただ、7 月調査においても参加企業が 6 割近くを占めている（57.7%）。

<就職決定企業のインターンシップ等の参加有無>



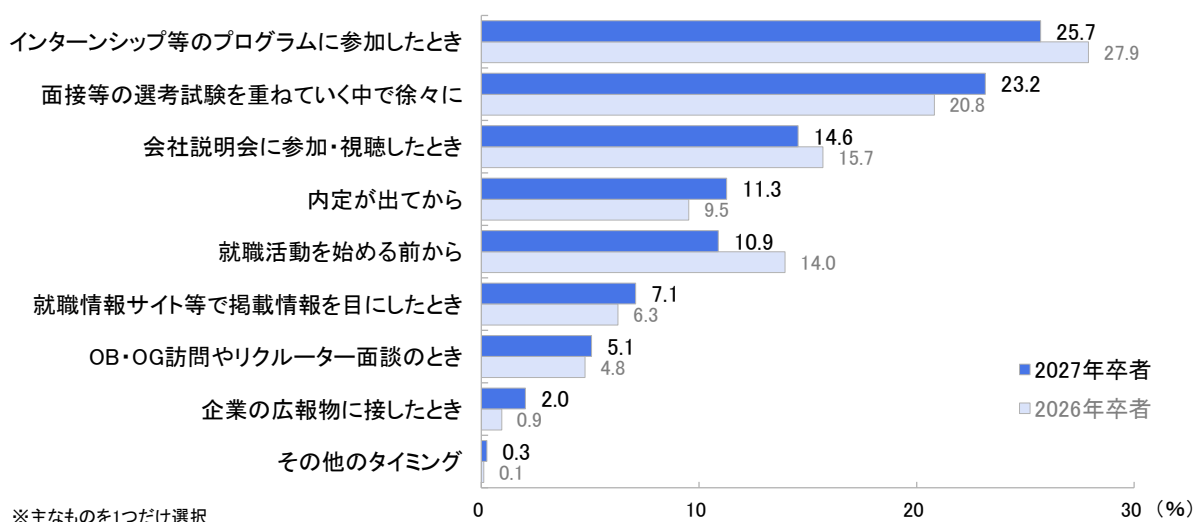
就職決定企業を知ったきっかけは、「就職情報サイト」が31.4%と突出しており、多くの学生にとって就職活動の入口として大きな役割を果たしていることがわかる。次いで「就職活動の前から知っていた」が2割程度あり（22.7%）、「合同企業説明会」（11.3%）と続く。以降はポイントが分散しており、様々なサービスやメディア、人との繋がりなどが、企業との出会いのきっかけになっている様子が見えてくる。

<就職決定企業を知ったキッカケ>



就職先企業で働きたいと思ったタイミングを尋ねると、「インターンシップ等のプログラムに参加したとき」（25.7%）が前年に引き続き最も多いが、ポイントはやや減少（27.9%→25.7%）。次点の「面接等の選考試験を重ねていく中で徐々に」が前年より2.4ポイント増えた（23.2%）。選考の過程で接する社員との対話などが、学生の入社意欲に影響を与えていることがわかる。また、「内定が出てから」（11.3%）も前年より増えており、内定後のフォローによって入社意欲が高まったケースも少なくない。

<就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミング>



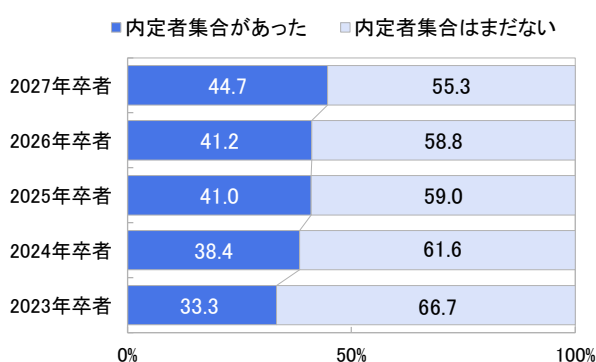
6. 就職決定企業の内定者集合

就職先を決定して就職活動を終了した学生に、内定者集合について尋ねた。

7 月初旬の調査時点で「内定者集合があった」という回答は 44.7%。前年を 3.5 ポイント上回っており、早い時期から内定者集合を実施する企業が増えていることが読み取れる。参加形式については、対面形式が 8 割を超える（84.7%）。コロナ禍ではオンライン中心だったが、以降は減少傾向が続き、近年は対面形式が主流だ。

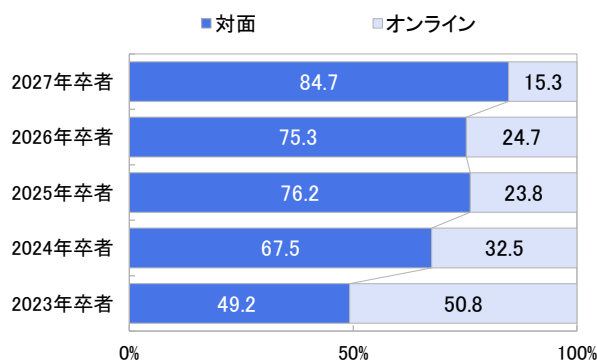
参加した学生のコメントを見ると、ワークや懇親会を通じて内定者同士や先輩社員と親睦を深めたり、企業理解を深めたりした様子がうかがえる。加えて、対面形式では職場見学や食事会等も多く開催されているようだ。

＜就職決定企業の内定者集合の有無＞



※各年7月調査

＜内定者集合の形式＞



■内定者集合の内容

【対面】

- 会社概要説明、部門社員との座談会、そして、内定者同士や社員と気軽に交流できる時間を通して、入社後イメージするきっかけになる内々定者懇親会。 <エネルギー>
- 内定者懇談会が本社であり、お酒やオードブルを囲んで同期や先輩社員と喋った。 <情報処理・ソフトウェア>
- 内々定式があり、社員の方から仕事内容やキャリアについて説明を受けた。 <建設・住宅・不動産>
- 内定者同士で親睦を深める会があった。グループワークなどを行った。疑問点や不安なことについて質問に答えてもらえる面談の時間があった。 <電子・電機>
- 研究所見学と飲み会。 <水産・食品>
- 内定者同士でのグループワーク、現場行員と役員のパネルトーク、行員・内定者交えた立食パーティー。 <銀行>
- 6 人グループでレクレーションを行った。自己紹介ゲームやかるたなど交流の機会が設けられた。 <情報処理・ソフトウェア>
- オフィスに集まり、お弁当を食べたり、座談会やオフィス見学をしたりした。 <マスコミ>
- 給与や就業日数などの細かな説明と、先輩社員との座談会。 <官公庁・団体>

【オンライン】

- 内定者同士の顔合わせと、社員懇談会。 <自動車・輸送用機器>
- 同職種のメンバーだけで自己紹介と今後の流れの確認。 <OA 機器・家具・スポーツ・玩具他>
- オンラインで、内々定者の交流会と人事への質問会。 <機械・プラントエンジニアリング>
- グループ対決でミニゲームをしたり、自由に話したりした。 <情報処理・ソフトウェア>

※＜決定企業の業界＞